## ● 授業科目の内容紹介

音楽療法士に関する科目

| 授業科目名 | 単位数 | | 学科 | 年次 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 必修 | 選択 | | | |
| **音楽療法各論Ⅳ（総合Ⅰ）** | | **4** | **音** | **1** | **宍戸幽香里** |

## Ⅰ　主題

音楽療法対象者を取り巻く環境、障害種類や障害レベルについての基礎知識を学び、音楽療法の方法を学ぶ。

## Ⅱ　授業の到達目標

1.障害者を取り巻く環境ンついて理解する。
2.障害者の種類や障害レベルを理解する。

## Ⅲ　授業の概要

DVD や様々な具体例を通して、障害者を取り巻く環境や障害の種類、レベル等を学ぶ。

## Ⅳ　授業計画と内容

| 項　目 | 内　容 |
|---|---|
| 1. 障害についての考え方 | 障害者を取り巻く環境 |
| 2. 知的・発達障害について | 乳幼児 |
| 3. 知的・発達障害について | 学齢児 |
| 4. 知的・発達障害者について | 成人期 |
| 5. 重症心身障害児・者について | 乳幼児～成人まで |
| 6. 高齢者の疾病について | パーキンソン症について |
| 7. 高齢者の疾病について | 認知症の種類 |
| 8. 高齢者の音楽療法 | 介護予防について |
| 9. 精神科領域について | 集団歌唱の意義 |
| 10. その他障害全般について | 染色体異常、未熟児等 |
| 11. 観察方法 | DVD による観察を通して |
| 12. 観察方法 | DVD による観察を通して |
| 13. 観察方法 | DVD による観察を通して |
| 14. 観察方法 | DVD による観察を通して |
| 15～30. ロールプレイ | |

## Ⅴ　使用テキスト・教材等

資料配布

## Ⅵ　参考書・参考資料

## Ⅶ　成績評価の方法及び基準

| 成績評価方法 / 学習項目 | 試験 | 小テスト 小レポート | 成果発表 作品 | 授業態度 | その他(実技) |
|---|---|---|---|---|---|
| 配点比率(%)　合計 100 | 60 | | | 20 | 20 |
| 障害別理解と観察 | ○ | | | ○ | |
| 観察方法ワーク | | | | | ○ |

## Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

図書、深部うやニュースなどから、障害者やその家族など全般についての知識を得ること。

## Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

課題は締切期日を遵守すること。

| 授業科目名 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 学科 | 年次 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| **音楽科教育研究** | | **4** | **音** | **1** | **北山敦康** |

## Ⅰ 主題
この授業は、中学校教諭一種「音楽」免許の必修科目である。ここでは、以下のような到達目標を設定している。

## Ⅱ 授業の到達目標
1.本科で学んだ「音楽科教育法」の知識・経験をさらに発展させる。
2.中学校の音楽科授業における実践的指導力を高める。
3.今日的な教育課題に対応した授業デザインや教材開発の能力を向上させる。

## Ⅲ 授業の概要
授業の前半期は講義を中心にして音楽教育の現状把握や各自の問題意識の再構築を行い、後半期においては模擬授業とディスカッションを通して授業実践力と授業研究能力の向上を図る。

## Ⅳ 授業計画と内容

| | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 1. | オリエンテーション | 本授業の概要と計画について |
| 2～4. | 音楽教育の歴史 | 学習指導要領の変遷と目的観 |
| 5～7. | 音楽教育の方法 | 多感覚教育とその方法 |
| 8～9. | 音楽教育の目的 | 音楽教育の課題と展望 |
| 10～11. | 教材分析(1) | 歌唱、器楽 |
| 12～15. | 教材分析(2) | 鑑賞、創作 |
| 16. | まとめ | 前半期の総括 |
| 17～20. | 教材研究の方法 | 実践例に学ぶ教材研究 |
| 21～25. | 学習計画の立案 | 指導案の作成と手順 |
| 26～27. | 模擬授業(1) | 実践と検討 |
| 28～29. | 模擬授業(2) | 実践と検討 |
| 30. | まとめ | 後半期および全体の総括 |

## Ⅴ 使用テキスト・教材等
音楽科教育法 中学校・高等学校教職課程　　教育芸術社

## Ⅵ 参考書・参考資料

## Ⅶ 成績評価の方法及び基準

| 成績評価方法 / 学習項目 | 試験 | 小テスト 小レポート | 成果発表 作品 | 授業態度 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 配点比率(%)　合計 100 | 40 | 20 | 20 | 20 | |
| 授業実践力と授業研究能力の向上 | ○ | ○ | | ○ | |
| 模擬授業の実践と指導案 | | ○ | ○ | ○ | |

## Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
授業で指示した予習・復習を行い、課題についてレポートを作成すること。

## Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
必要に応じて印刷資料を配布します。

| 授業科目名 | 単位数 | | 学科 | 年次 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 必修 | 選択 | | | |
| **社会福祉学特論** | **2** | | **音** | **1** | **大塚隆雄** |

## Ⅰ 主題

本科で学んだ社会福祉に関する知識を基に、児童の社会的養護のあり方、新たな仕組みについて考え、これからの方向と保育者のあり方を学ぶ。

## Ⅱ 授業の到達目標

1.児童虐待を背景にしたリスクのある家庭への支援の現状を把握する。
2.家庭支援計画の策定と自立支援について習熟する。
3.社会的養護のこれからの方向と保育者のあり方を学ぶ。

## Ⅲ 授業の概要

15 回の講義や演習を通して、現行の社会的養護の仕組みについて資料等を活用しながら検証し、課題と新たな子ども達の生活環境整備について考える。

## Ⅳ 授業計画と内容

| | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 1-2. | リスクのある家庭支援 | 虐待を背景にした家庭支援が社会的養護の中心になってきた。危機介入と家庭支援の現状と課題を探る。 |
| 3-4. | ファーストノックの受け入れ | リスクのある家庭からの相談受け入れ体制の現状と課題を探る。 |
| 5-7. | リスクのある家庭支援計画の作成 | 児童を中心に親子関係の再構築を目指し Plan-Do-See のあり方を学ぶ |
| 8-10. | 社会的養護に関する関係機関の連携 | 行政機関を中心に子ども達の生活環境に関わる様々な機関の現状と連携のあり方を探る。 |
| 11-13. | リスクのある家庭の自立支援 | 家庭が社会的養護から脱して子育てするパーマネンシーを獲得する支援のあり方を考える。 |
| 14. | 新たな社会的養護の仕組み | 1-13 回の講義・演習を踏まえ、子どもの最善の利益にかなう生活環境について考える。 |
| 15. | まとめ | |

## Ⅴ 使用テキスト・教材等

プリント

## Ⅵ 参考書・参考資料

## Ⅶ 成績評価の方法及び基準

| 成績評価方法 / 学習項目 | 試験 | 小テスト 小レポート | 成果発表 作品 | 授業態度 | その他 ( ) |
|---|---|---|---|---|---|
| 配点比率(%)　合計 100 | 60 | 10 | | 30 | |
| 社会的養護の現状と課題 | ○ | ○ | | ○ | |
| リスクのある家庭支援計画 | ○ | ○ | | ○ | |
| 関係機関の連携 | ○ | ○ | | ○ | |
| リスクのある家庭の自立支援 | ○ | ○ | | ○ | |
| 新たな社会的養護の仕組み | ○ | ○ | | ○ | |

## Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

課題について各自で資料収集・分析をしておくこと。

## Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

| 授業科目名 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 学科 | 年次 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| **臨床心理学特論** | | **2** | **音** | **1** | **里村澄子** |

## Ⅰ 主題
この授業では、臨床心理に関する知識を元に心の有り様を理解する方法を学ぶ。

## Ⅱ 授業の到達目標
1.臨床心理の知識を理解し、自分の心の動きが観察できるようにする。
2.関わりながら他者を理解する姿勢を体得し、そのためのコミュニケート能力を高める。
3.心理臨床で培った知見をもとに、問題を抱えた人の理解・支援に応用できるようにする。

## Ⅲ 授業の概要
臨床心理に関する知識を理解するとともに、子どもの観察と同時に背後にある家庭等保育環境を構造的に捉えながら個人を支える心理援助の方法を探る。

## Ⅳ 授業計画と内容
| | |
|---|---|
| 1.臨床心理学を学ぶ目的について | 個人を支える心理理解の仕方 |
| 2.心理臨床の課題と研究方法 | 関与しながら観察する心理臨床 |
| 3.カウンセリングと傾聴 | カウンセリング・マインドについて |
| 4.ロージャズの人間観 | 相互尊重の精神のもつ意味 |
| 5.心の発達と心理臨床 | 発達課題とその節目について |
| 6.パーソナリテイーの発達 | 育児環境と心の発達 |
| 7.性格に関する理論的背景について | 性格の構造、性格論 |
| 8.自分の性格について考える | 性格検査の実施（自己理解） |
| 9.適応について | 心の働きと適応機制 |
| 10.不適応と適応障害 | サインとしての問題行動 |
| 11.問題行動の捉え方 | 治療的接近と行動変容への援助 |
| 12.個人への心理援助について | 認知行動療法の理論と解説 |
| 13.事例からみる心理援助 | 事例Aを通して考える援助 |
| 14.集団参加の視点からの心理支援 | 社会化への援助のあり方について |
| 15.家族への支援について | 支援への連携と個人情報 |
| 定期試験 | 筆記試験 |

## Ⅴ 使用テキスト・教材等
心とかかわる臨床心理　川瀬正祐也他著　　ナカニシヤ出版

## Ⅵ 参考書・参考資料
カウンセリングを考える　河合隼雄　　創元社

## Ⅶ 成績評価の方法及び基準
| 成績評価方法 / 学習項目 | 試験 | 小テスト 小レポート | 成果発表 作品 | 授業態度 | その他 （　　） |
|---|---|---|---|---|---|
| 配点比率(%)　合計 100 | 60 | 20 | 5 | 15 | |
| 臨床心理の理論理解 | ○ | ○ | | ○ | |
| 事例による自己観察・他者理解の発表 | | ○ | ○ | ○ | |
| 心理支援の実践 | ○ | | ○ | | |

## Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
テキストのⅠ章を事前に読んでおくこと。

## Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
積極的な授業参加を旨とする。基本的にレポート提出をもって授業参加とする。

| 授業科目名 | 単位数 | | 学科 | 年次 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 必修 | 選択 | | | |
| **音楽療法体験実習Ⅱ** | | **(2)** | **音** | **1** | **宍戸幽香里** |

## Ⅰ　主題
音楽療法全般に関する基礎知識を再確認しながら、臨床現場で他職種との連携の必要性を学ぶ。

## Ⅱ　授業の到達目標
1.他職種の専門領域の基礎知識を理解する。
2.臨床現場での音楽療法士としての専門性を理解する。
3.音楽療法の基礎知識を応用をする方法を理解する。

## Ⅲ　授業の概要
実技を伴いながら、音楽療法の基礎から応用するまでの理論を学ぶ。

## Ⅳ　授業計画と内容
| | 項　目 | 内　容 |
|---|---|---|
| 1. | 施設実習の事前指導 | 実習施設の概要 |
| 2. | 施設実習の事前指導 | 他職種との連携 |

## Ⅴ　使用テキスト・教材等
なし

## Ⅵ　参考書・参考資料

## Ⅶ　成績評価の方法及び基準
| 成績評価方法 / 学習項目 | 試験 | 小テスト 小レポート | 成果発表 作品 | 授業態度 | その他(実技) |
|---|---|---|---|---|---|
| 配点比率(%)　合計 100 | | | | 50 | 50 |
| 実践力 | | | | ○ | ○ |

## Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
実習準備を十分にする。対象者の障害についての情報収集をする。

## Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）